

愛知県におけるオンライン学習支援の 取り組みについて

愛知県立尾西高等学校 教諭 柴田謙一



目次

- ▶ 1 はじめに
- ▶ 2 県教育委員会によるオンライン学習支援の支援
- ▶ 3 本校の一斉休校時の取り組み
- ▶ 4 筆者独自の取り組み
- ▶ 5 おわりに



目次

- ➡ 1 はじめに
- ➡ 2 県教育委員会によるオンライン学習支援の支援
- ➡ 3 本校の一斉休校時の取り組み
- ➡ 4 筆者独自の取り組み
- ➡ 5 おわりに

尾西高校について

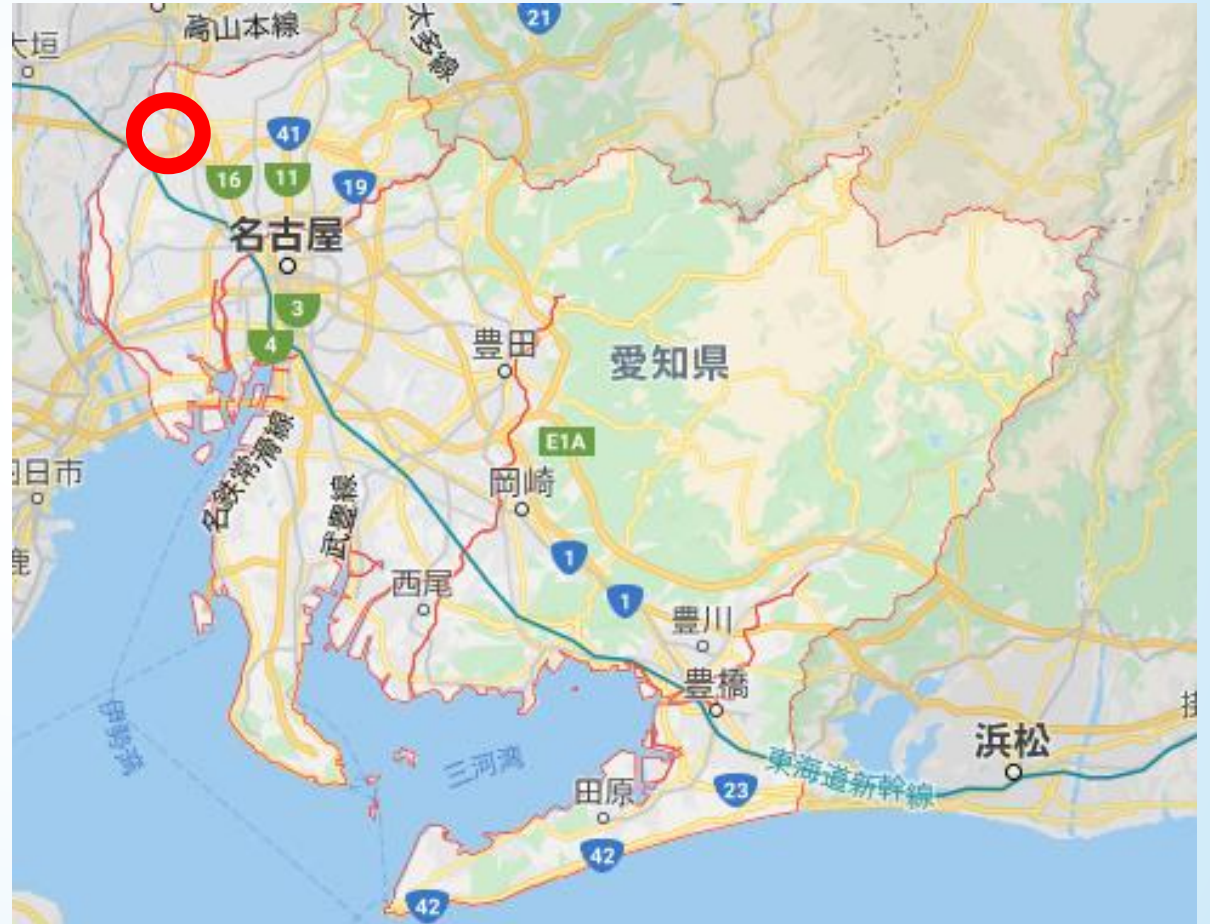
愛知県一宮市にある県立高校

クラス数 1学年6クラス

少人数授業を展開
(4クラスを6クラス展開)

木曾川を背に180度からしか生徒が募集できない

平成29年度入試から定員割れ



Google Mapより

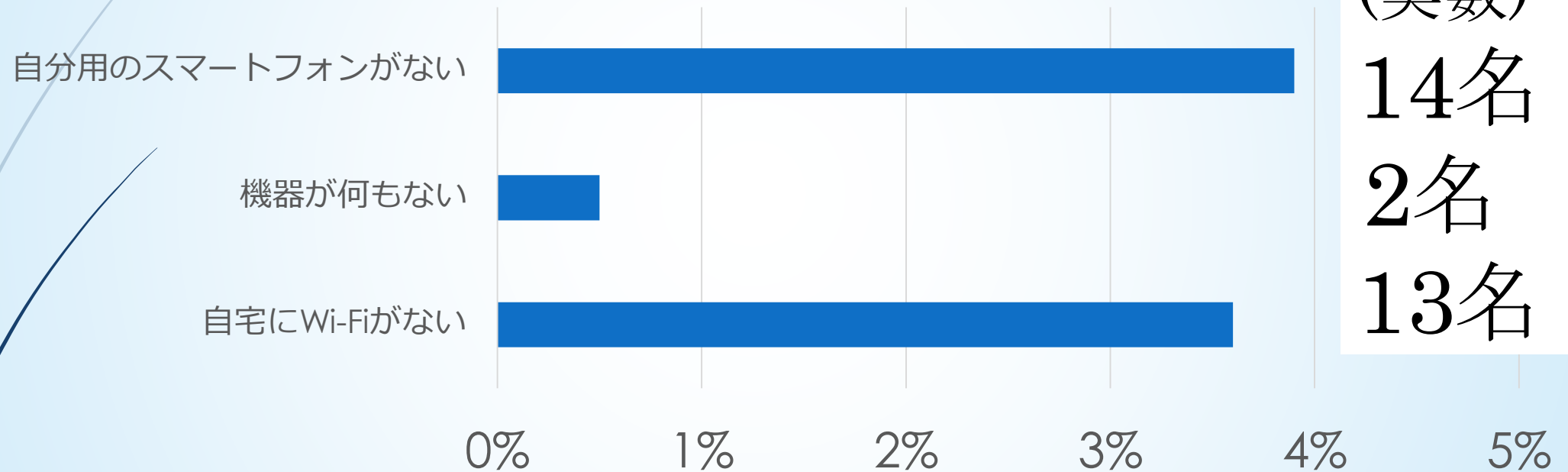
尾西高校周辺



Google Mapより

尾西高校について

情報通信機器端末等の未整備率



※「機器が何もない」は情報通信機器端末に加え、DVD等の映像出力装置を含む

回答数：354名（調査時欠席者26名）



目次

- 1 はじめに
- 2 県教育委員会によるオンライン学習支援の支援
- 3 本校の一斉休校時の取り組み
- 4 筆者独自の取り組み
- 5 おわりに

県教育委員会による支援

- ▶ 民間のオンライン学習支援サービスの導入
 - ▶ スタディーサプリ（リクルート社）
 - ▶ 県立高校全生徒分のアカウント取得
 - ▶ ロイロノート（LoiLO社）
 - ▶ 県立高校全生徒分のアカウント取得
 - ▶ ふじこさん（フジア社）
 - ▶ ICT導入支援サービス（7月31日まで）

※以上のサービスは6月から運用開始

県教育委員会による支援

➡ 機器整備（主なもの）

- ➡ 生徒用タブレット端末 1校当たり40台（予定）
- ➡ 生徒用モバイルルータ 1校当たり40台（予定）
- ➡ 教員用モバイルルーター クラス数（予定）
- ➡ 動画撮影用マイク 4台（予定）
- ➡ プロジェクタの追加配備（予定）
- ➡ 普通教室の無線APの配備（予定）
- ➡ インターネット回線 1Gbpsを4Gbpsへ変更
- ➡ Zoom接続用教員端末 1台を4台へ追加配備



目次

- 1 はじめに
- 2 県教育委員会によるオンライン学習支援の支援
- 3 本校の一斉休校時の取り組み
- 4 筆者独自の取り組み
- 5 おわりに

出校日について

▶ 県教育委員会の通知

- ▶ 週に2回程度の範囲でなら出校日の設定を許可

▶ 本校の出校日

- ▶ おおよそ月に2回程度設定

▶ 他校の状況

- ▶ 始業式（この日から休校が延長）に出校させてからは一切設定していない学校もある

出校日について

- ▶ 本校が出校日を設定できた要因
 - ▶ 総生徒数380人の小規模校である
 - ▶ 1クラス平均20人と少人数である
 - ▶ 最寄の公共交通機関がローカル線で乗客が少ないことおよび自転車通学が比較的多いこと

所謂「3密」を回避しやすい環境にあった

出校日について

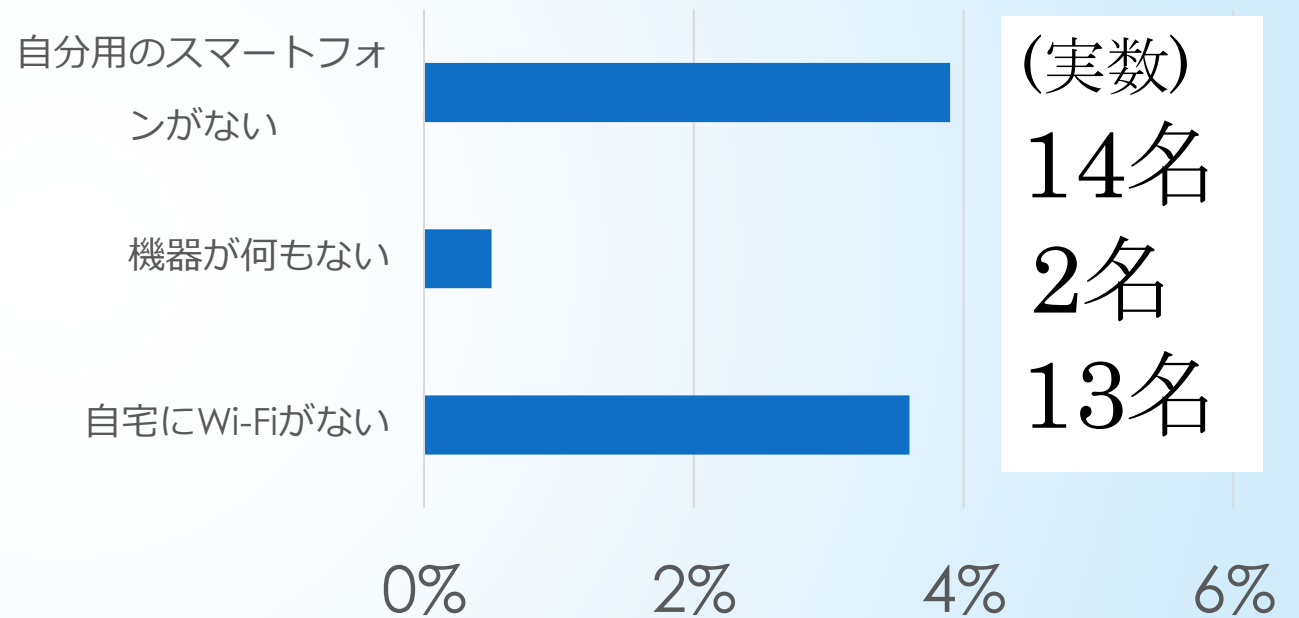
■ 配慮事項

- 生徒が1ヶ所（下駄箱など）に集中しないようにする
 - 登校時間を学年ごとにずらすことで混雑の緩和
 - 登校日を学年ごとに設定する
- 登校に不安を訴える保護者や生徒に対する配慮
 - 画一的な対応ではなく、保護者や生徒の要望に応じて柔軟に対応する（別日の登校等に対応）

情報通信機器端末等について

- 利用機器
 - ほぼ全員がスマホ
- 通信端末がない生徒
 - DVD等に動画を録画し配布
- 何も無い生徒
 - ポータブルの映像出力装置の貸出等

情報通信機器端末等の未整備率



学習支援の流れについて

- ▶ 4月上旬～5月上旬（GWまで）
 - ▶ 出校日に**オフライン課題**を配布・回収して対応

日付	内容
4月7日（火）	4月19日までの課題を配布
4月20日（月）	5月6日までの課題配布・(ClassiのIDを配布)
4月27日（月）	課題回収・情報通信機器端末所持状況調査

最終的には「春季休業課題」「休校課題①」「休校課題②」の3つのオフライン課題が課せられた。

学習支援の流れについて

- ▶ 5月中旬（GW明け）～5月下旬（休校解除まで）
 - ▶ **オンライン課題**の説明文を配布・それに伴う課題の配布およびオフライン課題の回収

日付	内容
5月11日（月）～ 13日（水）	オンライン学習支援に関する説明 （YouTubeの視聴方法）
5月25日（月）～	学校再開準備期間として分散登校開始

- ▶ オンライン課題は実質2週間程度取り組むことになった
※延べ100本の動画をYouTubeに限定公開

動画撮影時の注意点

撮影について

- ・ 1本あたりの長さは**5分～10分**を目安にする。
- ・ 問題の解説などは上記の時間を意識し、数本に分けるなどの配慮を行う。
- ・ 撮影機材は個人端末の付属カメラを活用し、**専門的な機材は基本的に使用しない**。
- ・ 撮影は原則一発撮りで、**リテイクはしない**。
- ・ **動画の編集は原則行わない**。最低限の修正で済むように、撮影中もし失敗したら数秒間空白の時間を取り（編集点）、そこをトリミングするだけで済むようにする。
- ・ 著作権について配慮する。とくに**問題集は教科書とは扱いが異なる**ので注意すること。

動画撮影時の注意点

アップロードについて

- ・ YouTube上へのアップロードまでは各自で行う。
- ・ 起案書に限定公開のURLを明記し、**教科主任→教務主任→教頭→校長の順で決済**を取る。

動画のチェック体制について

- ・ 教科主任は**教科の専門的な観点**で確認を行う。
- ・ 教務主任および教頭は**外部に公開する観点**から確認を行う。

公開手続き

- ・ 上記の確認を経てから動画の公開手続きをとる。
- ・ URLは学校HPの限定公開ページに掲載する。
- ・ 更新作業は**各学年の担当者**が行う。



目次

- 1 はじめに
- 2 県教育委員会によるオンライン学習支援の支援
- 3 本校の一斉休校時の取り組み
- 4 筆者独自の取り組み
- 5 おわりに

筆者独自の取り組み

- ▶ Zoomを用いたリアルタイムオンライン授業
 - ▶ 3年1組（情報ビジネスコース）20名を対象に実施
 - ▶ Slackを活用し、双方向連絡網を確保
- ▶ ZoomとYouTube Liveの連携機能を用いたオンライン弓道大会
 - ▶ 尾張地区6校が参加
 - ▶ YouTube Liveは常時80名以上が観戦

取り組みの目的

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波や本校関係者の感染を見据え、再度休校になった際のオンラインを用いた学習支援のノウハウの蓄積。
- ▶ 今後の学校教育へのビデオ会議システムの活用を研究する基礎資料の蓄積。

Zoomを用いたオンラインリアルタイム授業

■ 実施授業

- 課題研究「ITパスポート班」6名（以後A班）
- 専門教科「情報テクノロジー」20名（以後B班）

■ 導入の流れ

- A班で先行実施。ノウハウを蓄積しB班でも実施。

Zoomを用いたオンラインリアルタイム授業

▶ Slack導入の流れ

日程	取り組み
4/7(火)	該当クラスの一部生徒にSlackを導入。
4/8(水)~ 4/19(日)	試験的にテキストベースで朝のST、帰りのSTの実施。
4/20(月)	該当クラス全員にSlackを導入。以後、連絡等に活用

Zoomを用いたオンラインリアルタイム授業

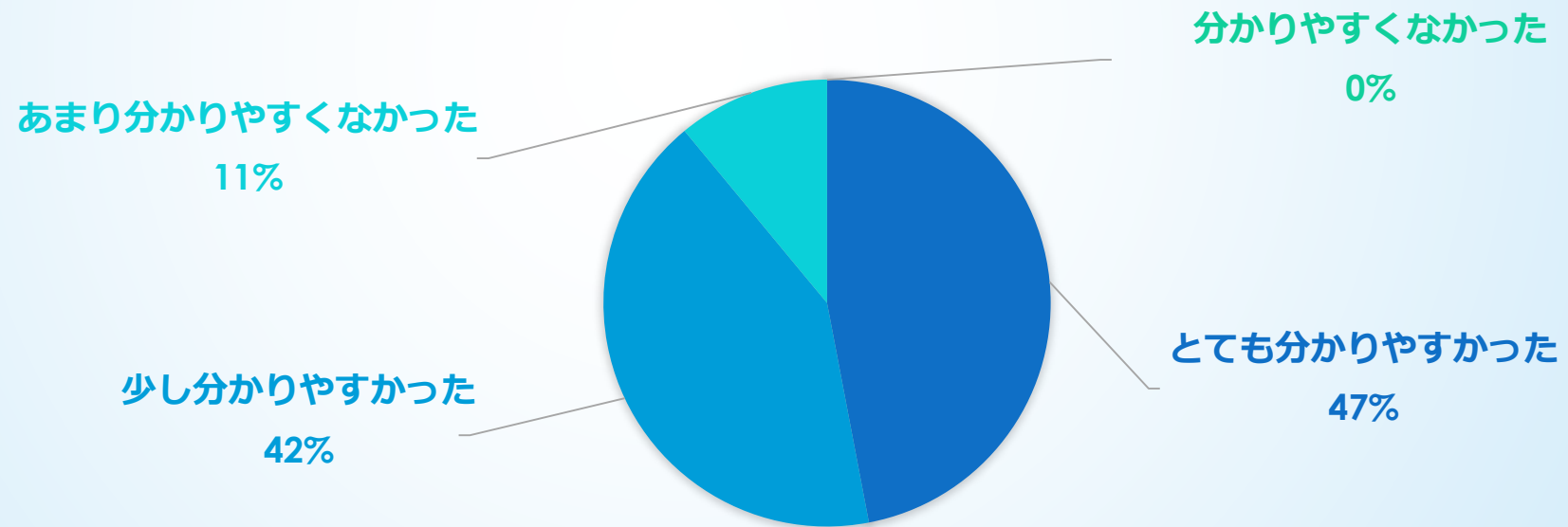
Zoom導入の流れ

日程	取り組み
4/8(水)~ 4/19(日)	A班に対して4月20日にZoomの接続テストを行うことを伝え、事前インストールを指示。
4/20(月)	Zoomの接続テストを実施。課題研究をZoomを用いて実施することを伝え、日程調整。
4/28(火)~ 5/8(金)	該当期間に4回の授業を実施。授業ごとに生徒に改善して欲しいことなどを発表してもらいブラッシュアップを図る。
5/13(水)~ 5/20(金)	該当期間にA班で3回、B班で2回の授業を実施。

Zoomを用いたオンラインリアルタイム授業

▶ 生徒アンケート結果

ZOOMを使った授業は分かりやすかったか



※回答数：19名（調査時欠席者1名）

Zoomを用いたオンラインリアルタイム授業

▶ 生徒アンケート結果

肯定的な意見

- ・リアルタイムの映像が見れたので分かりやすかった
- ・ホワイトボードが分かりやすい（同様の回答多数有り）
- ・三密を守り、普段と変わらない授業で先生が分かりやすく、最後はきちんと意見を聞き、改善してくれたから

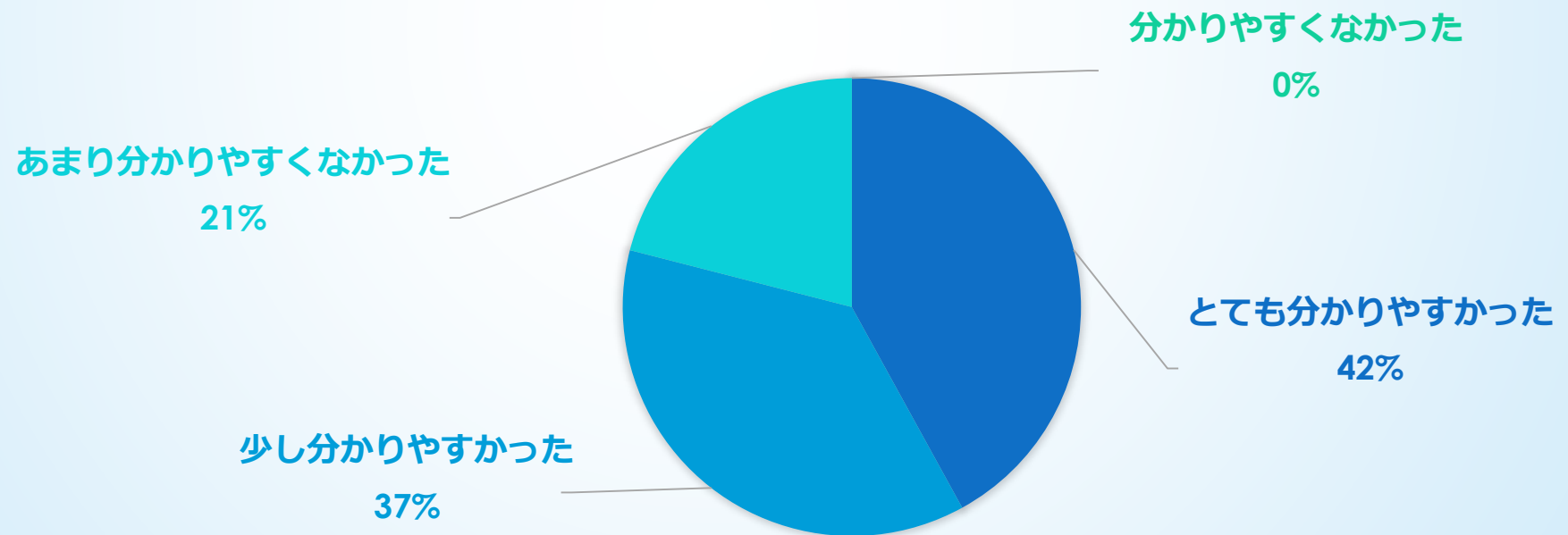
否定的な意見

- ・時々通信が途切れることがあったから
- ・文字が見えにくいときと画面の切り替わりが早い時があった

Zoomを用いたオンラインリアルタイム授業

▶ 生徒アンケート結果

ZOOMを使った授業はYOUTUBEを使った授業より
分かりやすかったか



※回答数：19名（調査時欠席者1名）

Zoomを用いたオンラインリアルタイム授業

▶ 生徒アンケート結果

肯定的な意見

- ・分からないところがすぐ質問できるから（同様の回答多数有り）
- ・リアルタイムで会話ができるから
- ・質問が来るから考えて話を聞いたから
- ・ここがこうだよと指差して教えてくれるから

否定的な意見

- ・YouTubeは繰り返し見直すことができるから（同様の回答多数有り）
- ・ノートを写すときに動画を止めれるから

Zoomを用いたオンラインリアルタイム授業

▶ 筆者の雑感

▶ ライブ感を出す

→ ホワイトボード機能を活用し、普段の授業に近づける。双方向のやりとりによる学びの深化。スライドを流す授業であればオンデマンド型の方が見直しができるので有利？

▶ 生徒の顔出しを必須にしなかったため、筆者以外は全員カメラはオフ

→ 生徒の反応が見えないため、テンポ感が掴みづらい。「〇〇、分かったか？」「●●、次に進めて大丈夫か？」など、個別に確認することで生徒の状況把握ができると同時に、次は自分が当てられるのでは？という緊張感で集中力が向上。

ZoomとYouTube Liveの連携機能を用いたオンライン弓道大会

▶ 大会の趣旨

- ▶ インターハイ中止を受けた3年生の引退試合
- ▶ 3年生の気持ちに区切りをつけ、次の進路に向けたきっかけ作り
- ▶ オンラインを用いた大会の可能性を探る

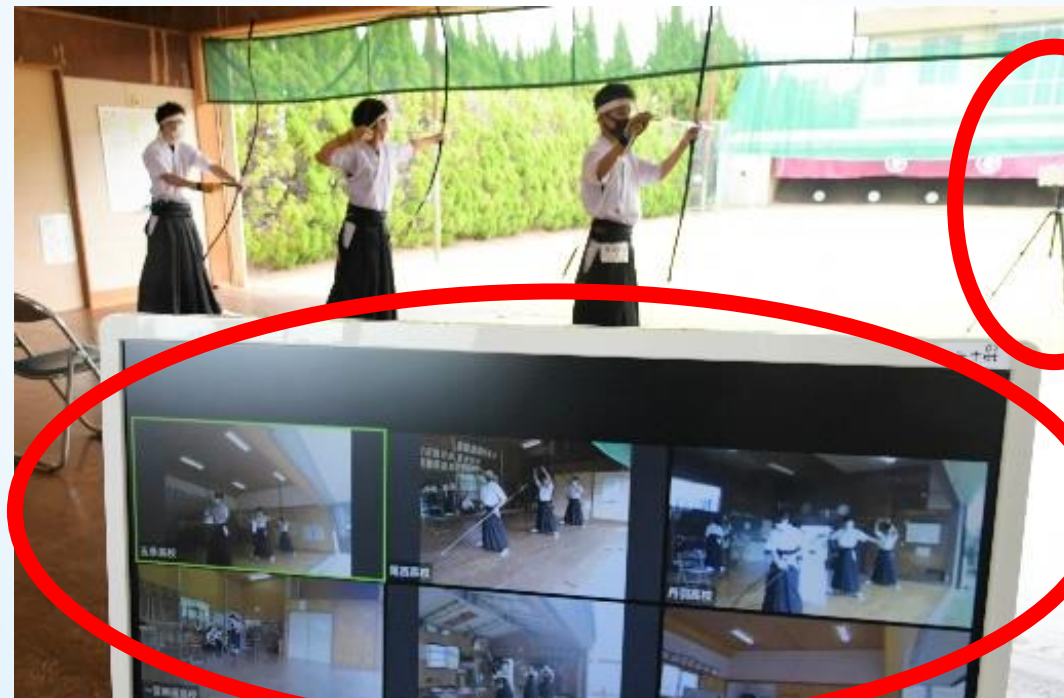
▶ ZoomとYouTube Liveの連携機能を用いた理由

- ▶ 全員がZoomに接続すると画面管理が煩雑になるため

ZoomとYouTube Liveの連携機能を用いたオンライン弓道大会

▶ 撮影の様子

選手撮影用タブレット



Zoomで各校の様子を集約

ZoomとYouTube Liveの連携機能を用いたオンライン弓道大会



総体中止で尾張の6校 あす大会

有終舞台オンライン弓道

コロナ禍の影響で夏の全国高校総合体育大会(インターハイ)が中止になったを受け、愛知県尾張地方の六校の弓道部が合同で、引退する三年生向けの「オンライン弓道大会」を二十一日、開催する。各校の弓道場をビデオ会議サービス「Zoom(ズーム)」で結び、事前の練習試合もつまづいていった。全国でも珍しい試みで、コロナ時代の新形式になるか。(下條大樹)

「パーン」

十八日、愛知県一宮市の尾西高校の弓道場に、矢が的を射る音が響いた。傍らのパソコンにはズームの分割画面。練習試合に参加した各校の選手たちが、それぞれの弓道場で矢を放つ様子が映った。「なんとかいけそう」。大会発起人の一人、尾西高校顧問の柴田謙二教諭(左)が語った。

同時に行射、画面で確認

各校道場では密集を避けるため、三人一組で二つずつ空けて立つ。ズームを使い、同時に矢を放つ。各校顧問が各道場で審判を務め、的中数は無料通信アプリのLINEでリアルタイムで共有する。会場は無観客だが、他学年の生徒や保護者はネット観戦できる。

尾西高弓道部男子主将の栗田佳季さん(二年)は「インターハイがなくなったのは残念だったが、先生たちが最後の大会を用意してくれたうれしい。後悔の無いよう、一本一本しっかりと引きたい」と意気込む。

弓道場は、的がある場所



使大尾西高で練習試合ができるが、柴田教諭は「遠方の学校でも練習試合ができるし、会場に来られない保護者に見てもらえる。今後も生かせる」と語った。

県内版



ズームを使った「オンライン弓道大会」で会場の様子を共有しながら弓を引く選手ら。一宮市の尾西高で

オンライン弓道緊張共有
6高校3年生が熱戦

尾張地方の六つの高校弓道部が二十一日、各校の弓道場をビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」で結び、引退する三年生向けの「オンライン弓道大会」を開いた。(下條大樹)

新型コロナウイルスの影響で夏の全国大会が中止になったのを機に、一宮市の尾西高校の顧問らが三年生に有終の美を飾らせてあげたいと提案。六校の五十四人が参加し、各校三人一組となり、一人につき八射の的中で競い合った。

各校の射場はスマートフォンやタブレット端末を設置。六分割された画面に

初代在豊橋ドイツ名誉領事

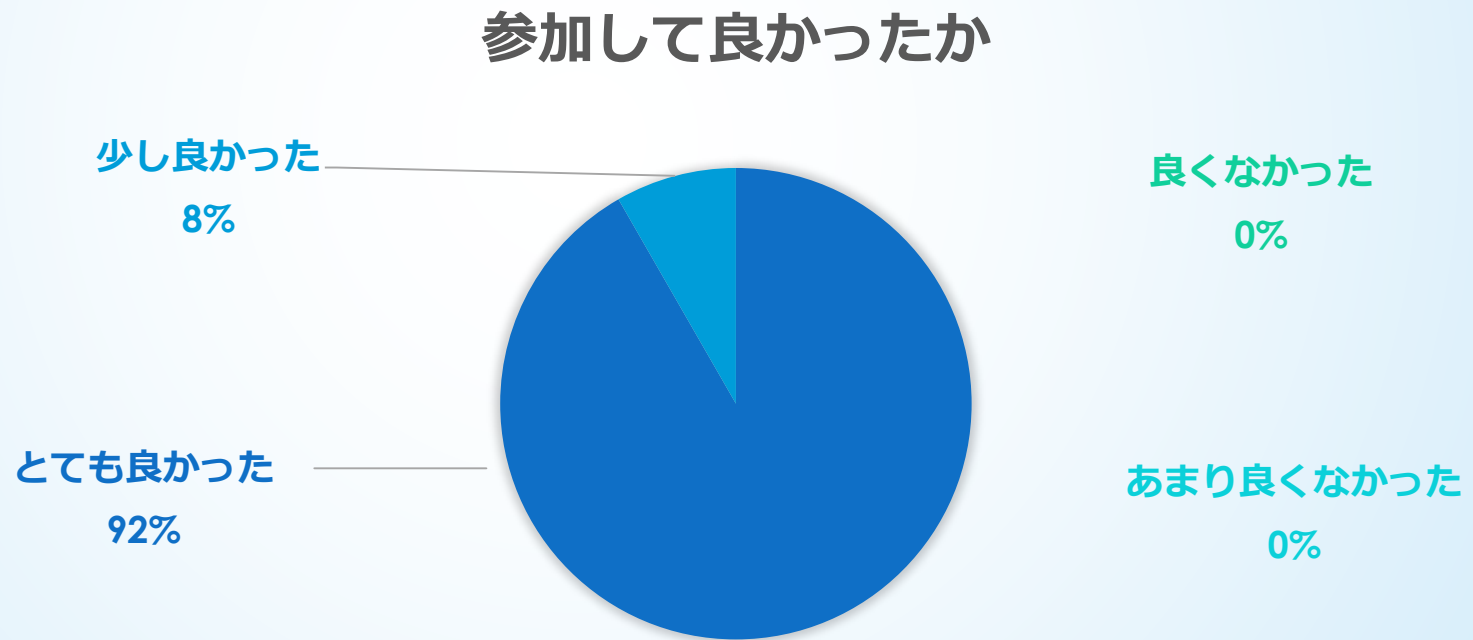
古屋ドイツ連邦共和国名誉領事だった元中部電力会長の川口文夫さんが二十七年に離任して以降、中部地区で名誉領事が不在となっていた。豊橋市が後任を探し、豊橋市独協会長を務めるなどドイツ事情に明るい神野さんに就任を打診した。

十九日の就任式では、サ

あじろ(左)でない
(二十四歳で今年八月七日が小満、22日が大暑(い)で)
子ママ、中絶希望
つきま、けんじ(8歳) =
高浜市、母・都筑佳恵(40歳) =
母、テレビ見すぎ!
子、くみちやん(5歳) =
見守るに生まれてきたの!
とた、くるみ(1歳) =
長久市、母・田中早苗(40歳) =
孫、あは、会えなくてさびしい
祖母、さびしいなあ、早く

ZoomとYouTube Liveの連携機能を用いた オンライン弓道大会

▶ 生徒アンケート結果

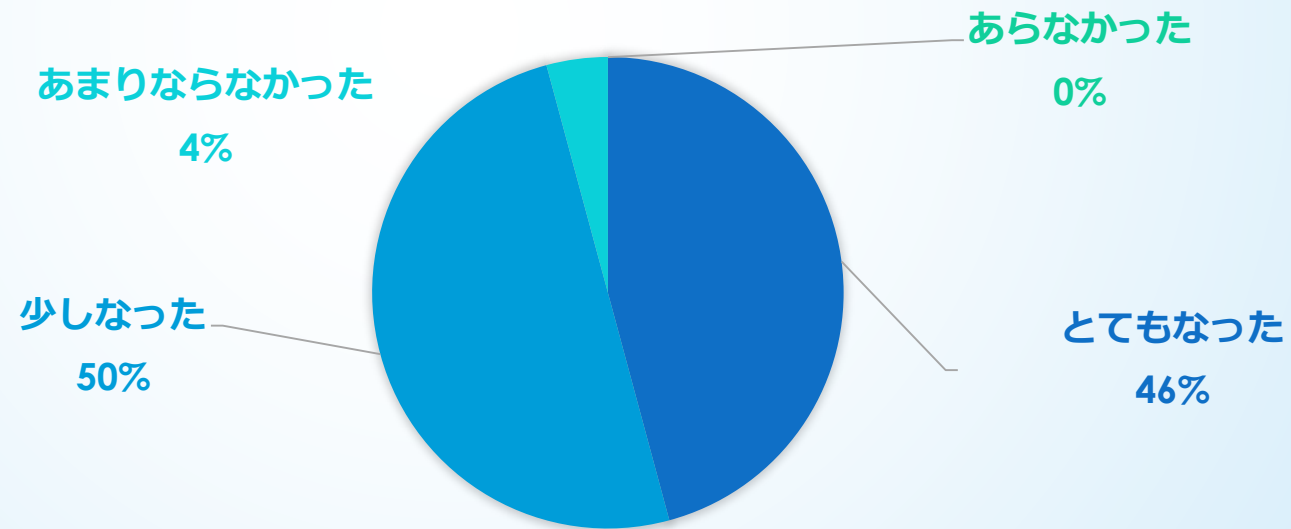


※回答数：24名（出場した3年生のみ抽出）

ZoomとYouTube Liveの連携機能を用いた オンライン弓道大会

▶ 生徒アンケート結果

切り替えるきっかけになったか



※回答数：24名（出場した3年生のみ抽出）

ZoomとYouTube Liveの連携機能を用いた オンライン弓道大会

▶ アンケート結果

・インターハイがなくなると聞いてとても残念思っていたが、先生方が色々な工夫をして大会を開催してくれて嬉しかった。残念ながら、3年生全員が参加出来たわけではなかったが、いろんな高校の仲間と最後に一緒に引けたことがとても良い思い出になった。こんな状況でも、戦えてよかった。また、最後に自分がこれまで頑張ってきた成果を発揮する大会があってよかったと思っている。後輩たちにはこの経験を生かして、うまくzoomを活用し、いろんな高校と練習試合をできると良いのではないかと思う。

・このようなかたちで大会を開催して頂けたことを 有難く思います。3年生で大会が無くなったことを知った時には気落ちしていたので、このまま部活が終わってしまうのは親としても切ないことだったので、新しい形で、家で家族で見ることができ、遠方の祖父母も見ることができました。本当にありがとうございました。

ZoomとYouTube Liveの連携機能を用いた オンライン弓道大会

▶ 筆者の雑感

▶ 手元にあるものでやれることをやる

→ アンケートには「もっといい音や画質で配信して欲しい」「的に当たる様子が見たい」などの意見があった。全て事前に検討したが、やりすぎると参加に二の足を踏む学校が出てくる。あるもので最大限の効果を引き出すことが大切。

▶ 公式戦への応用

→ 公式戦などの無観客試合に応用ができる。また、控室の3密を避けるため、複数会場用意した際に各部屋をZoomで繋ぐことで、顧問の人手不足解消に繋がる可能性がある。



目次

- 1 はじめに
- 2 県教育委員会によるオンライン学習支援の支援
- 3 本校の一斉休校時の取り組み
- 4 筆者独自の取り組み
- 5 おわりに

おわりに

- ➡ これからは休校期間で培ったオンラインの手法を日々の学習に活かせる学校と学校再開とともに**忘れ去られていく学校**に分かれていくのでは？
- ➡ この原稿を書いている7月中旬時点で、学校関係者の感染も増えてきており、**再休校も遠い未来ではない**のでは？
- ➡ せっかく得たノウハウや知見を継続して活かす方法を考えなければ、また**突然（と思い込んでいる）休校に対応できない**のでは？。

おわりに

- ▶ 様々な機会で情報を共有し、**学び続けることが大切**
- ▶ 歩みを止めず、**前に進み続けましょう。**

ご清聴ありがとうございました